

手の温もり 独自のエステケア

通所介護などで提供

ソシオリラクゼーション協会

札幌市中央区に拠点を
供している。

札幌市中央区に拠点を
供している。

ソシオリラクゼーションは、フランス発祥のソシオエステティックをベースに、独自に構築したケア手法。ほぐしを目的とした一般的なエステと異なり、1秒間に5センチという低速で皮膚に手の温もりを伝え、脳の自立神経を落ち着かせて相手の緊張を解きほぐし、安心感を提供する。ケアを行う部位は手、顔、足などが対象。



高齢者施設を中心に施術を実施する中園代表

の」とレットを貼られて扱われることが、闘病中の人にとって最も辛いこと」と実感した。

たとえ病気を患っていても、「人としての価値は変わらないこと」を、施術を通じて思い出してほしい」と考え、サロン経営を辞め、ソシオエステシャン資格取得後2025年4月に大学の友人2人と同協会を設立した。

協会員は3月時点で13人。活動エリアは札幌市、旭川市のほか、網走市を中心としたオホーツク地方、帯広市など。設立から約1年間で介護施設・事業所、就労継続支援B型事業所、保育園など約60施設を訪問し、360人にケアを届けるなど、着実に活動の輪を広げている。

設立のきっかけは、中園代表（40）自身の闘病経験にある。21歳で卵巣がんを患い、治療を受ける中で「一度でも病気になる」と周囲から『病気

透析病棟看護師を対象にしたハンドケア勉強会の開催に加え、レスパイトケアとして、闘病中の子どもを持つ保護者や、

訪問看護ステーションで働く看護師・職員向けのケア活動を行うなど、活動範囲は多岐にわたる。

施術を行う上で最も大切にしているのは、相手を病名や肩書というフィルターを通して見ないこと。中園代表は例えば、まひで身体が動かない患者であっても、これまでの経歴や人生観に触れるような対話を心掛けていく。常に自然体で接することを意識しつつ、患者が『自分にはこんなに価値があったんだ』と思える出さすきっかけを提供したい」と思いを語る。

同協会はハンドケア講習会を行っており、①オンライン講習（1日間）②技術講習（2日間）③施設実習（3日間）④報告会を経て独自の認定資格を授与。技術面だけでなく衛生管理、感染症対策、コミュニケーション技術を備えたエステ

「病気を治すことだけが治療ではない。患者のパーソナルな面を支えることの効果も理解してほしい」と中園代表。「日々の生活の中に『生きる楽しさ』を与えるのが、私たちの役割。長く頼りにしてもらえよう、目の前の活動一つひとつに懸命に取り組んでいきたい」と地に根を張った活動を続けていく。

（下藤海斗）

イッシュン育成に努めており、受講生の中には現役看護師、訪問看護ステーション職員などいるという。

2月には斗南病院（札幌市中央区）、札幌南徳洲会病院（同市清田区）でがんサロン講話やハンドケア勉強会を実施。28年設立予定のさっぽろこどもホスピスでも導入に向けた話し合いも進めており、医療機関との連携強化を図っている。

「病気を治すことだけが治療ではない。患者のパーソナルな面を支えることの効果も理解してほしい」と中園代表。「日々の生活の中に『生きる楽しさ』を与えるのが、私たちの役割。長く頼りにしてもらえよう、目の前の活動一つひとつに懸命に取り組んでいきたい」と地に根を張った活動を続けていく。